

# 会 議 録

## 1 会議名

令和3年度第13回春日区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### (1) 報告事項（公開）

○ 地域協議会会長会議について

### (2) 自主的審議事項（公開）

○ 各分科会における審議の状況について

## 3 開催日時

令和4年1月25日（火）午後6時30分から午後9時10分まで

## 4 開催場所

市民プラザ 第2会議室

## 5 傍聴人の数

2人

## 6 非公開の理由

なし

## 7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・ 委員：阿部一博、石田秀雄、市川 優、太田一巳（会長）、岡本重孝、白濱昭博、田中裕子（副会長）、谷 健一、藤田晴子、本多俊雄、丸山佳子、山田 孝、吉田 実（副会長）、吉田義昭、渡邊康子、渡部忠行（欠席3人）

・ 事務局：中部まちづくりセンター 小林センター長、藤井係長、山崎主事

## 8 発言の内容（要旨）

### 【藤井係長】

・ 会議の開会を宣言

### 【小林センター長】

・ 鷺澤委員の逝去を受けた対応について経過を報告

### 【藤井係長】

・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【太田会長】

- ・挨拶

【藤井係長】

本日は、当初「春日山荘における趣味講座の移転」について報告する予定であった。

この間、市の「公の施設の再配置計画」の見直しの中で、直江津区の「市民いこいの家」にある温浴施設を廃止すること、また、その後の利活用について、春日山荘における趣味講座の移転先とすることが検討されてきたが、直江津区地域協議会への諮問の結果、1月18日の会議で「支障あり」と決定された。

このことにより、移転先を「市民いこいの家」とする計画について、再度検討することとなったため、本日は報告できないこととなった。

本件の報告は、計画がまとまった時点で改めて実施する。

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【太田会長】

- ・会議録の確認：田中副会長に依頼

次第3 議題「(1) 報告事項」の「地域協議会会長会議について」に入る。

事務局より説明を求める。

【小林センター長】

資料 1-1、1-2、1-3 に基づき説明

【太田会長】

1月6日に開催された地域協議会会長会議に出席したので、新市長から話を聞いた感想を少し話したい。

やはり時間が短いと思う部分があった。市長の思いや考えを伝える時間がほとんどであり、地域協議会会長、つまりこちらの意見を聞くような時間がない。また、事前に資料等が配布されていれば、少しは腹積もりしながら出席できたのだが、何かトップダウン的な報告のような感じがした。

もう1点。地域活動支援事業を活用している団体もいるため、事業が無くなってしまふことは寂しいと思う部分もある。

一方で、春日区の中でも話が出ているように、地域活動支援事業は「ただ配っているだけの補助事業」であるため、地域協議会として何かしら予算を使って活動できな

いのかといった話が、自主的審議を始める他の区で出ていた。自主的審議を行っても、ただまとめ上げるだけで、予算がない。意見書を提出しても何かしてもらえわけでもないというところがあった。

だが令和5年度に向けて、今度は地域として独自の予算が付くとのことである。その辺も踏まえて、自主的審議が有意義に進められると感じられる部分があった。

新たなかたちとして、地域協議会が自主的審議に本当に力を入れていくところであると思うし、地域協議会の委員1人1人が考え直すところだと感じた。

確認したいこと等ある委員の発言を求める。

#### 【吉田 義昭委員】

地域活動支援事業が令和5年度には無くなるとのことだが、地域協議会も無くなるということか。

#### 【太田会長】

地域協議会は無くならない。地域活動支援事業が無くなるということである。

地域協議会は、現在3つの分科会に分かれて進めている自主的審議事項に特化して活動することになるという意味である。

今はまだ、どのような予算付けの方法になるか分からない。今までは、予算がないため何もできないといった話があったと思うが、自主的審議で「こういった内容に予算が必要だ」というものを市に提案し、承認が得られれば予算付けしてもらえるようである。

#### 【渡部委員】

配布資料には、地域活動支援事業の審査を地域協議会では行わず、市が行うと記載されている。

これは地域協議会に対してものすごく失礼なことのように思う。信用していないから市で行うと言っているように思える。

市の様々な施策に対して、地域の声が入りにくいために、地域協議会が発足したとの経過があると思う。しかしながら、いきなり「地域協議会に審査はお願いせず、市が行う」とした理由は何か。

#### 【小林センター長】

市としては、地域協議会から審査の役割を取り上げたり、礼を欠くようなことは全く考えていない。

市長の話にあったとおり、地域協議会には自主的審議事項に専念する時間をお作りいただくため、これまで時間をかけていた審査を市で行うことにより、地域協議会の負担軽減を考えたものである。地域協議会委員の力量等を勘案した話ではないため、その点だけのご理解いただきたい。

次に、先ほどの吉田 義昭委員の質問について補足である。

本当にこれからの話であるため、どこまで実現するのか具体的に申し上げることはできないが、来年度予算案への提案を1つの目標として、頑張っていたいただきたいと期待している。

地域協議会で決したことについて、そのまま予算案が通るとは約束できないが、市長の言葉では、それを期待して頑張ってもらいたいということである。その点は、可能性はあるというふうに理解いただければと思う。

#### 【吉田 義昭委員】

1月6日の会議録を読んだ。28区の地域協議会会長が、市長の話したことを十分に理解できるような討論にはなっていないと思う。自分も配布資料や会議録、新聞記事も見たが、聞かなければはっきりと分からないところが多々ある。

今後、説明にあったやり方で予算付けをしていく際の審議や、市の進め方など、もう少し分かるように、流れを説明していただかなければ分からない。こういった改革の際には、もう少し丁寧に説明していただきたいと思っている。

#### 【太田会長】

1月6日の地域協議会会長会議に出席し、市長の話を聞いた。短い時間ではあったが、地域協議会委員に地域活動支援事業を任せられないため、審査・採択は市で行うといった言い回しではなかった。

先ほどの小林センター長の説明にあったように、市長は、地域協議会では、地域活動支援事業の審査・採択に時間を割いており、自主的審議に向かうのに時間がかかる。なかなか自主的審議にいけない区もあると聞いていると話していた。

市長の考えとしても、地域協議会委員には、地域活動支援事業ではなく自主的審議を主体に活動してもらいたいとの思いから、地域活動支援事業の審査・採択は事務局に任せるといった発言であった。

ある地区からの意見で、地域協議会と提案者の関係性もあるため、いきなり事務方に任すことを心配する声もあった。

この後の協議事項であるが、事務局にすべての審査を任せてよいか、またはこれまでどおり地域協議会ですべてを行うのか、地域協議会である程度方向性を作ったものを事務局に任せるのか。そういったことを、本日協議のうえ決定しなければならない。

先ほどの渡部委員の発言にあったような、「地域協議会委員に任せられないため、審査・採択は市で行う」といった意味合いではなかった。そこは理解してほしい。

#### 【市川委員】

これまで各地域協議会で行っていた提案募集はどうなるのか。

また、これまで自分たちがある程度の時間をかけて行った審査・採択を市で行うということだが、市のどこの部門で行うのか。

もし、市議会議員が審査・採択を行うというようなことになった場合は、すべての地区に議員がいるわけではないため、議員がいない地区はどうするのかといった話も出てくるように思う。

次に「地域独自の予算」とある。これまで春日区では1,000万円以上の予算がついていたが、今後の予算配分はどのように考えているのか。

これまで地域活動支援事業に提案した団体が全くいなくなるとは限らないが、違和感はあると思う。これをいきなり市民に提示して、皆がある程度理解をしてくれるか分からない。

もう少し丁寧な説明が必要ではないかと思う。

#### 【太田会長】

事務局より説明を求める。

#### 【小林センター長】

説明に丁寧さが欠けていたとのご指摘である。申し訳ないと思っている。少しずつでも理解してもらえよう、分からないこと等あれば聞いてほしい。

今ほどの市川委員の質問に回答する。

まず、この後の地域活動支援事業の提案等の流れについてである。

昨年度であれば、2月の中旬から後半にかけ、郵便物等で提案団体に事前説明会の開催を知らせ、3月頃に事前説明会を開催する流れで進めていた。この流れについては、今年度も同じようにしたいと考えている。審査の主体が市であっても、または地域協議会で審査されるにしても、この流れについては、昨年度のスケジュールをそのまま準用したいと考えている。

次に、春日区の提案事業の審査を誰が行うのかについてである。

審査は中部まちづくりセンターで行うため、自分たち事務局職員が春日区の審査を行うと考えてほしい。市議会議員が提案事業の審査に当たることはない。

次に「地域独自予算」の質問についてである。

市としても、これから検討を進めていくところであるため、現時点では「どのような予算となる」といったことは申し上げることができない。わかり次第、少しずつでもお知らせしていきたい。

**【市川委員】**

募集期間については「これまでどおり」ということで、今後もずっとそのままいくとの認識でよいか。

**【太田会長】**

地域活動支援事業は「令和4年度のみ」であり、令和5年度からは実施しない方針である。そのため、この3月は今までどおり事前説明会を実施し、4月上旬から募集が開始されることになると思う。

詳細について、事務局より説明願う。

**【藤井係長】**

令和3年度の募集については、3月に事前説明会を開催し、「4月1日から21日まで」を募集期間とした。この辺りは、カレンダーの曜日の都合はあるが、ほぼ同じようなかたちで実施できればと考えている。

応募について、提案団体にとってはあまり違いはないと思うが、審査を市で行うと決した場合、少し立ち位置の整理は必要だと思っている。

**【吉田 義昭委員】**

中部まちづくりセンターが審査を行うのか。

**【太田会長】**

春日区については、中部まちづくりセンターが審査を行うことになる。

**【藤井係長】**

本日の議論により、春日区では、引き続き地域協議会で審査・採択を行うと決した際には、改めて地域協議会に審査の依頼を行うことになる。議論の結果、市で審査を行ってもよいということであれば、市で審査を行うことになる。

**【太田会長】**

地域活動支援事業については、今後ずっと市が審査を行うということではなく、来年度のみの実施となる。

**【市川委員】**

自分たちの任期の間は市が審査を行うということか。

**【太田会長】**

今期の地域協議会の任期は残り 2 年である。

**【岡本委員】**

来年度以降は、地域活動支援事業はないということか。

**【太田会長】**

そうである。

来年度はこれまでと同じように、もう 1 回地域活動支援事業が実施される。

提案団体から出された提案書をどこで審査するかについて、議論のうえ決定したい。

資料 1-3 を見てほしい。

**【岡本委員】**

資料 1-3 の黄色の網掛け部分がよく分かりにくいいため、よく説明してほしい。

**【太田会長】**

今のところ、基本的には「市で進めたい」ということである。後ほど、改めて事務局より詳細な説明を求めたいと思う。

例えば、春日区では、事務局である「中部まちづくりセンター」に審査を任せるのではなく、春日区の地域協議会委員で審査を行いたいと委員の意向で決定した場合には、令和 4 年度の地域活動支援事業の審査・採択を、地域協議会で行うことは可能である。

**【岡本委員】**

資料 1-3 に記載されている内容を見ると、引き続き地域協議会で審査を行う場合の条件が書かれている。

「地域協議会が令和 5 年度予算案への反映を視野に入れた自主的審議を行うことを前提に、地域協議会として地域活動支援事業の審査、採択を行う意向のある場合は、」とある。

この条件がよく分からない。

**【小林センター長】**

指摘のあった文章は2つの文章が入っていると思う。前文と後文で、多少読み方を変えなければいけないと思うため、丁寧に説明していく。

最初の「前提に」までの部分である。

「市による審査を基本としながらも、地域協議会が令和5年度予算案への反映を視野に入れた自主的審議を行うことを前提に」で1回区切った場合、市長の説明にもあったとおり、「基本的に市で審査を行う」ということである。

地域協議会委員には、自主的審議を頑張ってください、目指すところは令和5年度予算案で「春日区でこういったことをしたい」という思いを伝えて欲しいということである。

ここまでが前文の解釈である。

そして、会長会議の中で、他区の地域協議会会長より意見がたくさんあった。中には、今までどおり、地域協議会で審査を行いたいという会長もいた。

それであれば、前文にあったように、自主的審議事項に専念していただくのだが、余力があって地域活動支援事業の審査も行いたいということであれば、その場合に限って、地域協議会で審査を行うこともできるということである。

基本的には「市で審査を行う」としているが、地域によっては、自分たちで審査を行いたいというところもある。それであれば、市としては止め立てできないため、「どちらで審査をしてもよい」という選択肢をお示ししている。

春日区協議会としてどちらを選ぶかは、春日区で決めていただきたいということである。

#### 【太田会長】

地域協議会会長会議でも、ある区では自主的審議と地域活動支援事業がすごく密接な部分もあるため、事務局に任せるのではなく、地域協議会として審査を行いたいと発言した区もあった。

そのため、全区の審査を市に任せる、反対に、すべて地域協議会が行う、ということではなく、区によっていろいろな色があるため、各区内で検討してほしいという話である。

#### 【渡部委員】

地域協議会に選択権はあるのか。

#### 【太田会長】



春日区では、春日区の地域協議会に選択権があるということである。

例えば、地域活動支援事業の採択に時間をかけるのではなく自主的審議に時間を費やしたいため、事務局に審査を任せて自主的審議に力を入れていくという区もあるかもしれない。

最初は「市が全て行う」との話であったのだが、各区の会長から「市で勝手に決められても困る」「各区によって事情がある」といった意見があった。その結果、各区の対応を可とする案が出てきた。「事務局に全部任せる」、または「これまでどおり、地域協議会で関わる」という選択肢があるということである。

**【吉田 義昭委員】**

これはあくまでも案ということか。

**【太田会長】**

そのとおり。

各区の地域協議会に判断を委ねられているため、本日、令和4年度の地域活動支援事業の採択を、春日区ではどのように行っていくのかについて、話を進めていきたいところである。この説明で理解していただけたか。

(よしの声)

他に何か質問等あるか。

**【谷委員】**

「地域独自の予算」はどのような制度で、どのくらいのことになるのかまったく分からない。

地域協議会で自主的審議を行った結果、制度上予算が付いて、やりたい活動ができるものなのか。基本的なところが何も分からない。

どのような制度になるのか。

**【小林センター長】**

確かにそれは、皆が興味のあるところだと思う。申し訳ないが、先ほども説明したように、「どのような仕組み」で、「どのような規模」で、「どこがそれを配分するのか」等については、一切、これから決定していくことである。

**【渡部委員】**

これからのことについても、我々が審査する・しないの判定を行うのか。

**【小林センター長】**

「地域独自の予算」と「地域活動支援事業」については、全く違う話である。

ただイメージとしては、「地域活動支援事業」から「地域独自予算」にシフトするということであるため、一緒に記載している。

これまで地域協議会で審査・採択を行っていた地域活動支援事業は、令和5年度をもって終了する。

**【渡部委員】**

それは分かるのだが、今年度と来年度は同じ配分額と考えてよいのか。

**【小林センター長】**

現時点では、予定としてではあるが、来年度は市全体としての予算額は1億8,000万円程度を予定している。

**【渡部委員】**

金額が変わるということはないのか。

**【小林センター長】**

断言はできないが、目安としてそのように考えてよいと思う。

**【渡部委員】**

中部まちづくりセンターの職員は3人だと思うが、とんでもない仕事になると思う。事務局に任せても大丈夫なのか。

**【小林センター長】**

心配いただき、感謝する。

確かに、地域協議会委員から慎重に審査していただいていた部分を、すべて事務局で行うことについては、若干の緊張も感じている。

ただ来年度、提案を募集したとして、これまでに見たこともないような、新規事業が数多く上がってくるだろうかといった思いもある。

**【渡部委員】**

わからない。

例えばの話として、交通安全協会の提案について、今度は支部長である自分がプレゼンテーションで説明をしてもよいということか。

そして、市の職員が審査をするとなった場合、これまでとは全然別の感覚の人が審査するということになる。

**【小林センター長】**

その場に出られる時には、地域協議会委員としてではなく、交通安全協会の支部長として来られるということである。

**【太田会長】**

他に質問等あるか。

まだ、難しい部分ではあるが、簡単に言うと、地域活動支援事業はもう1回、これまでと同じように実施される。

**【渡部委員】**

来年度のことか。

**【太田会長】**

令和4年度の1回である。もう1回の実施について、地域協議会で審査をするかどうかを決定する。

令和5年度には地域活動支援事業の補助金はなくなる。

その分、どうかたちの予算付けになるか分からないが、今度は予算付けができるようになり、地域協議会の委員が自主的審議に専念して活動できるようになる。

「地域独自の予算」に関しては、現時点ではまだ、まったく何も分からない状況である。それは令和4年度に、事務局も含めた市で準備をしていく。それにはまた、地域協議会としても、できるところはしていかなければならないということだが、それで皆さん理解していただけたか。

他に質問等あるか。

(発言なし)

では次のステップに進んでよいか。

(よしの声)

令和4年度、今年の4月から行われる地域活動支援事業の審査について、基本的には、「市が行う」または「これまでどおり、地域協議会が行う」の2択になる。

この2択で採決したいが、よいか。

**【田中副会長】**

採決の前に、隣の委員等と少し話をしなくても大丈夫か。「意見を合わせる」というわけではないが、「こういうことはどうだろう」といったそれぞれの考えを話し合う時間はいらぬか。

不要であればよい。

### 【石田委員】

審査・採択に関しては、他の委員の意見を聞いたうえで、自分としてはどちらでも構わないと思っている。

それ以前に自分が思うことは、地域活動支援事業の募集に関してである。

自分が思っていることが、新潟日報にそのまま掲載されていたのだが、今までどおりのかたちであると、毎年同じ団体が提案し、採択される。自分はその辺を改革する必要があるのではないかとと思っている。

メディアによれば、6割の人が地域活動支援事業を知らない。また、地域協議会自体を理解している人も4割しかいない。そういう状況で、知っている人だけが毎年提案してくるのではなく、もう少し支援事業の改革がなければならないのではないかと思う。

地域活動支援事業が残り1年間ということだが、どのようにして一般の人たちに知らせるのか、その方法をもっと議論すべきだと思う。

### 【太田会長】

例年、2・3団体より新規事業が提案されるため、一概には言えないが、今ほどの石田委員の発言のように、多くの団体が継続的に提案している。

だが、どのようにして他の団体にPRしていけばよいのかは、すごく難しい。

そこはまた、地域協議会委員も努力し、広報でも掲載されるため、まずはそれを見てもらうことが1つなのかと思う。

### 【吉田 義昭委員】

2年にわたり地域活動支援事業の審査・採択を行ってきた。その中で、春日区としてどう審査・採択を行うのか、最終的な結論は出ていない。

我々が行ってきた審査を、市がどのように捉えているかという結論なしに、審査主体を選択することについて疑問に思う。

今日の会議でイエス・ノーを決めるのは納得できない。もう少し議論が必要である。月1回の会議開催にこだわらず、来週また集まってもんでいけばよい。

### 【太田会長】

今ほどの吉田 義昭委員から、短時間の協議でいきなり選択するというのは、言い方が適正か分からないが、乱暴ではないのかというような、もう少し丁寧に審議してもよいのではないかといった意見があった。

この件に関しては、本日は結論を出さずに、2月の下旬あたりに今一度審議する場を

設けて、そこで結論を出すかたちとしたほうがよいか。

**【本多委員】**

基本的には太田会長が言うように、多数決で決める方向になると思う。しかしながら、いきなりであったので、いろいろな案が出たんだと思う。

やはり皆、意向があるので、皆から一言ずつ話してもらってはどうか。各委員がどのように考えているかを聞いて確認しながら決めるのであれば、問題はないと思う。

**【太田会長】**

本日、説明を聞いたところでの各自の考えや思いについて、1人ずつ確認していく。

そのあとで、各委員の意見を集約した中で、本日、採決まで行けるか、まとまり切らなければ、次回に持ち越しになると思う。

それでは、阿部委員より順番に発言願う。

**【阿部委員】**

個人的な考えだが、最後くらいは地域協議会で審査を行いたいと思っている。

**【石田委員】**

皆の意向に従う。

自分が言いたかったことは、審査を市・地域協議会のどちらが行ってもよいと思っているのだが、その前に自分の思いとして発言した。

毎年、同じ団体が提案していることに非常に疑問に感じており、やめてほしいと思っている。

**【吉田 義昭委員】**

それを是正して、石田委員が疑問に思ったことを上げて、こういうやり方を行いたいと持っていくためには、どうしたらよいと思うか。

**【石田委員】**

具体的な方法は分からないが、先ほど発言したように、地域活動支援事業を知らない人が約6割いるわけである。そういう人に知ってもらえれば、提案してくる人もいるかもしれない。

話は違うが、現在、市でリフォームの補助金を出しているが、大雪の影響で申込者が殺到したため、予算が足りない。自分はこの状況をメディアを見た時に、地域活動支援事業を充ててもよいのではないかと個人的に思った。

地域活動支援事業は、はっきり言うと、提案すれば補助金がもらえるという感覚で

提案している団体も多いと、個人的に思っている。支援事業であるため、本当に困っている、支援してもらいたいと思っている人に補助することが、本来のあるべき姿ではないかと思っている。

贅沢なことをやっている、個人的に思っている。

#### 【市川委員】

自分は地域協議会委員となって2年目だが、1年目、2年目と非常に審議に時間がかかった。7時間、8時間もかかる審議は必要ないと思っている。自分は現段階で、審議にそれほどの長時間をかけるのであれば、市で審査を行ってほしいと思っている。

ただ、心情的には、地域から上がってくる問題であるため、地域住民が審議することが本当だと思う。

しかし、だらだらと長時間も審議をするくらいなら、自分は市で地域活動支援事業の審査を行っていただき、自主的審議を自分たちが行えばよいと考えている。

#### 【岡本委員】

自分も過去に2回、地域活動支援事業の審査に携わったが、個人的には、本当によい活動だと思える事業と、なぜこのような事業が提案されているのかと思う事業の両極端な印象があったと記憶している。

また、何と言ったらいいのか、個人で考えを持っていても、団体でいろいろな意見を言い合っていくと、引っ張られていってしまうような議論もあった。

石田委員の発言にもあったが、もっと多くの提案が上がってきて、それをてきぱきと審査していくことをイメージしていたが、過去に何年も提案されている事業が多かったと聞き、今後も審議していくのは非常にしんどいと思った。

そのため今回、市が審査を行ってくれるということであれば、自分は市で審査してもらったほうがよいと思っている。

#### 【白濱委員】

自分も過去に2回、審査をして端的に感じたことは、やはりこれまでに出た意見と一緒になのだが、最後の採決となると、最終的に心情をもって、採決をしていると思う。

その証拠に、1票差・2票差、場合によっては、太田会長が採決に加わるという場面も数多く見ている。

そういったことも含めて、やはり事務局は、会議録等を鑑みながら審査をすると思う。

あれだけの時間をかけて地域協議会で議論をするよりは、自主的審議に力を入れ、地域活動支援事業については事務局に審査をお願いしたいと考えている。

#### 【谷委員】

そもそも地域活動支援事業は、まちづくり・地域づくりをいかにしていくのか、地域で課題・問題を見つけ出して、地域を活性化していくために始まった事業である。

そのため、委員も事業内容をよく理解して見ていかなければ、ただ「通り一遍」の審査では、事業が続かないと思う。

また自主的審議にしても、3つの分科会に分かれてはいるが、やはり「まちづくり」である。地域づくりにどういうふうにしていくのかということ、それぞれ議論していると思う。

制度そのものとしては、まちづくり・地域づくりということを原点に、これからの自主的審議も考えていかなければならない。

子どもが少ない・出生率が低いという大きな問題で、これから地域をどのようにしていくのかということも、地域協議会の自主的審議の中で考えていかなければならない重要な問題だと思う。

そのためには、こういった背景の中で事務局で判断をしてもらい、そのあとで地域協議会に報告するかたちがよいと思っている。

#### 【藤田委員】

今回、地域協議会会長会議の会議録を読んだ。2回・3回と読みながら、「こういう区もあったのか」と、自分の区しか分からなかったため、そういった意味でとても参考になった。

地域に配分された地域活動支援事業費を、事業提案がないため返還した地区もあった。春日区としては、多くの団体からの提案があったが、地域協議会で協議した結果、返還するかたちとなった地区であった。最終的には、地域を活性化するためにどうしたらよいのかという、そこに尽きると思う。

また、会長会議の議事録を読みながら、市長が変わるとこれほどの課題が出てくるのだと思った。

頭の中でそういったことをいろいろと考えながら、春日区の住民に対してすぐに答えを出し、市に審査を任せるという状態でよいのか。もう1度、練ってから結論を出したほうが慎重であり、そのくらいの汗はかいてはどうか。

即、結論を出す前に、もう1度考える時間をいただけるとよいと思った。

**【本多委員】**

自分も今期より地域協議会委員となった。

3人集まれば3つの意見があると思う。そのため、これだけの人数がいれば様々な意見が出るため時間はかかるものだと思って審議してきた。

今回、市でこれだけの方針転換があった。

自分も基本的には、阿部委員の発言にあったように、自分の任期中に地域活動支援事業がこのようなかたちで終了するのであれば、自分たちで審査をして終わらせたいということが、自分の1番の考えである。

事務局に審査してもらうことがどうということではなく、自分が地域協議会委員をしているのであれば、当然やるべきだと自分は思っている。そのため、先ほど「いきなり採決するのではなく、皆の意見を聞いたほうがよいのではないか」と発言した。

自分は地域協議会で審査をするほうがよいと思っている。

**【丸山委員】**

現在、自主的審議に入っているいろいろと春日区のことを知るようになったため、自主的審議に専念したいと思っている。

そのため、事務局に地域活動支援事業の審査をお願いしたいと思っている。

**【山田委員】**

以前にも意見が出ていたが、毎年、募集に関する地域協議会だよりを事務局で配布していると思う。できることであれば、その方法をもう少し考えてはどうか。毎年同じ団体が提案してきているため、それをもう少し考えてはどうか。

例えば今年、岩木1丁目町内が初めて事業提案したのだが、それは自分が地域協議会委員であったため町内会長や役員に「ぜひ提案を出してほしい」と声かけし、提案することになった。

そういったかたちで、同じ団体が毎年提案するのではなく、協議会委員が自分や隣の町内等に声掛けを、新規の事業が提案されるように促してはどうか。

来年度の地域活動支援事業の審査については、地域協議会で審査したいと思っている。

**【吉田 義昭委員】**

提案事業は、毎年新規の案件が上がってくるわけではないので、地域協議会による



審議がいる事業と olmayan 事業を分けて進めてほしい。

学校の楽器については、学校の予算不足なので、市で決めてもらえばよい。

ただ、祭りなどでまちを活性化していくような事業の審査は、地域協議会で審査したほうが、より活性化に結びつく、中身が濃くなると思う。

我々が委員になる前から、審査結果のパターンは決まっていて、ほとんどの事業が新規案件ではない。

今後、市で差配するのであれば、パターンに当てはまる事業は市で審査し、春日区が目玉になるような事業は、地域協議会で審査する。そういう整理で進めていけば、自主的審議の中で芽が育って、それが活性化していくと思う。

私としては、提案事業を仕分けして、両方で審査を行ってほしいと思う。

#### 【渡邊委員】

今期、初めて地域協議会委員となり、いろいろと勉強させていただいた。

出た意見を聞いていて、最後だから地域協議会で審査をすることもよいかと思う反面、この2年間、本当に大変であった。基準がないことと、自分の知識だけで審査をするということは、非常に迷ったり、これでよいのかと思う面が非常に多かった。

そのため、市に審査をお願いすることもよいのかと思いつつある。

#### 【渡部委員】

自分は基本的に、市で審査をしてほしいと思っている。自信があるならやって欲しい。お手並み拝見したいと思う。

これまで、提案の評価について不公平感がものすごくあり、いろいろと苦情が来ているわけである。

市は、市が決めたわけではないため、地域協議会を決めたと逃げていたはずである。今度はどれだけ、この地域協議会ではなく、テーマをきちんとうまく横並びで査定できて、本当に自信があるならぜひやって欲しいと思う。

個人的には新規内容で提案した事業が、最下位で不採用になった苦い思い出があり、その時は市が提案事業を高く評価してくれた。その時、市が審査をしてくれていたら、多分、1位で採択されたと思う。

そういった苦い思い出もあるため、ぜひ市で審査してほしいと思っている。

本当に事務局の人数で審査ができるのか、心配している。

#### 【吉田 実副会長】

自分が2期目の地域協議会会長を務めた際の感想として、やはり地域活動支援事業の審査に追われてしまい、なかなか自主的審議ができなかった。

ただし、地域活動支援事業の審査を行うことによって、相当、学ぶことができたため、とても勉強になったというメリットがあった。今回も他の地域協議会会長からの意見で、地域活動支援事業の審査に時間が取られてしまい、自主的審議ができないとある。そういう考えも自分にはある。

また、3期目の自主的審議の中で、自分は「安全・安心分科会」のグループリーダーを務め、1件の意見書を出したのだが、内容をまとめるには相当なパワーが必要であった。

令和5年度に向けては、自主的審議の結果を、例えば、事業として提案してほしいということで、何となく期待されているということだと思うが、相当な努力が必要だと思う。

今回は、観光分科会のグループリーダーとなったが、ある程度は自分たち自身がレベルアップしていかなければ、それなりの結論・成果は出せない。本当に自主的審議は大変なのである。

そういったことを行いながら、地域活動支援事業の審査をすることは、自分はとてもではないが無理だと思っている。そのため、自分は事務局に審査を任せたいと思っている。

そして、事務局は何も知らないわけではない。各提案の受け付けをしているのは、事務局である。百も承知で提案を受理している。そのため、しっかりと審査してもらえと思っている。

課題としてはいろいろあると思う。自分は今まで見てきたが、毎年申請をすることは悪いわけではない。

ある団体は、春日区の地域づくりのための先進的な提案を、ずっと継続してきており、自分は素晴らしいと思っている。サロンの活動を行う等、芸術ではないのだが、スポーツ振興等を行って、優秀な結果も出されている。そのため、継続して提案を出すことは、自分は別に悪いとは思わない。

逆に、来年度で予算がなくなることは、自分としては多少、不本意である。段階的に減らすなどしてほしかった。市長が代わって方針が大きく変わるということは、やはり悪い面もあると思う。そういったことも考えて、意見を言うべきところは言って、

しっかり行っていかなければならない。

自分の考えとしては、次年度は事務局に審査を任せて、委員は一生懸命、自主的審議を行いたいと思っている。

#### 【太田会長】

自分も地域協議会会長ではなく、一委員として話をさせてほしい。

先ほど吉田 義昭委員の発言に「市と共催」といった言葉があったが、全部を市に任せるのではなく、地域協議会として、春日区のことでも理解しなければならない。また理解している部分もあるため、例年行っている採点の部分だけは、地域協議会委員が行ってはどうかと思っている。

大変な部分もあるが、委員は採点のみ行って事務局が集計を行い、ある程度の配分を出してもらったものを地域協議会で審議する。

これまで、長時間にわたる審議でなかなか大変な部分もあったと思う。地域活動支援事業の審査ではなく、自主的審議に力を入れたいと思っている。

だが、すべてを事務局に任せることは、地域協議会委員に任命されている部分もあるため、最後まで何かしら審査・採択に関わりたいと思っている。そのため、個人的には、採点のみ委員が行い、それを事務局でまとめて配分額を出してもらってはどうか。

#### 【田中副会長】

地域活動支援事業の審査・採択を2回ほど行った。体の負担も大きいのだが、精神的負担が大きいと思った。

精神的負担とは、「このような事業を採択してよいのか」と思うような提案があまりにも多過ぎ、そういった部分での精神的な負担があったというのが、自分の正直な感想である。

また、地域活動支援事業について、毎年提案する団体は、額が大きくなる。それは、うがった見方をすれば、少し減額されてもよいと思える部分がある。

市が審査を行うのはありがたいと思う反面、今度は市が審査することにより、自分たちの思いとは違った結果になるという、また別の精神的な負担を感じるのではないかと思っている。

また、市の予算執行は、予算の全額を執行することがよしとされている。1,050万円の配分額があり、1,300万円程度の提案があった際には、どこかを減額しながら1,050万円に収めるように採択される。

そのため自分としては、地域協議会の負担はあるが、例えばスポーツ団体、あるいは規模の大きな団体でもそうだが、本当に自分たちの地域を活性化させるためにやっている事業に予算を付けるという、「期待感」のもとに審査することがよいと思っている。

また、令和5年度に制度が無くなると聞いたとき、他の地区でもあったように、年々補助額を減額して自立を促す方向で取り組んでいたら、補助金が一気に無くなるというような状況になることはなかった。

今まで、補助希望額を一部減額して採択するなどしてきたが、ここで制度が変わることによって、地域協議会が審査するかしないかに関わらず、ある程度の補助を最後に行って、それで終わりということでも困る。

そのため、これまでの委員の意見を聞いた中では、自分は地域協議会で審査すると思っていたため、一部分は地域協議会の意見を取り入れてもらい、その結果をもとに市で採択してもらう方法もよいと思った。

審査の主体は地域協議会であると考えている。

#### 【小林センター長】

先ほどの発言の中で、中部まちづくりセンターですべての審査を実施できるのかとの質問について、新規事業がそれほど多く出てくるかといった、高を括る言い方になってしまったが、無尽蔵ではないということである。

気持ちとしては、地域を活性化する新規事業をたくさん出していただきたい。

ただそれは、無尽蔵に出てくるわけではないため、市で審査をするということになれば頑張りますということである。

これまでの審査の中で、我々が画一的に計算できるところはするのだが、新規事業や判断に迷うところについては、ぜひ地域協議会に相談したいと考えている。

個別の文書の中にも記載しているが、市が審査をするとしても、地域協議会に報告する機会を設けるということ考えている。そこについては、どのような関わり方をする等、そこまでの具体的なことは決まっていない。

決まっていないのだが、市で審査をするとしたとしても、皆様に相談する機会を設けたいと思っている。

#### 【太田会長】

まとめが難しい。

今ほどの小林センター長の補足の中で、事務局が審査を行うとしても、分からない部分は地域協議会に確認を取りながら進めたいとの話もあった。

どうするか。本日この場で結論を出すか。それとも次回に持ち越すか。

令和4年度に向けての、年度当初のすごく大事な案件になると思うため、本日出された意見、事前に資料は郵送してあったのだが、大きく改変する部分等、理解できていない部分もあるというふうに、皆の思いも伝わった。

本日出席の委員の思いも確認できたと思うため、それも踏まえて、最終的な判断の仕方については、次回に持ち越しとしてよいか。

**【吉田 義昭委員】**

先ほど、小林センター長は、相談する機会を設けると仰った。

だから、そういったかたちでまとめてほしい。

**【太田会長】**

本日出た意見をまとめる時間をいただいてよいか。

(よしの声)

令和4年度の地域活動支援事業の審査について、本日は結論を出すことができなかった。本日出された委員の意見を正副会長と事務局でまとめ、次回の会議にて提案したいと思う。

また次回の日程についても後ほど調整し、次回の会議で最終的な方向を出したいと思っている。

以上で次第3 議題「(1) 報告事項」の「② 地域協議会会長会議について」を終了する。

次に次第3 議題「(2) 自主的審議事項」の「各分科会における審議の状況について」に入る。

予定時間を大幅に超過しているため、本日の会議について提案である。

本日は各分科会より審議状況の報告をしていただき、全体での意見交換会のみとしてはどうか。

その後に予定していた、各分科会の開催は次回に持ち越しとしたい。よいか。

(よしの声)

では、本日は全体会のみで開催とする。

では、事務局より説明を求める。

**【藤井係長】**

- ・資料2に基づき説明

**【太田会長】**

次に各分科会より前回の結果報告を求める。最初に観光分科会より説明願う。

**【吉田 実副会長】**

- ・資料2に基づき説明

**【太田会長】**

今ほどの説明に質疑を求める。

**【吉田 義昭委員】**

「検討する」というが、どのように仕掛けて、今後展開するのか、構想を教えてください。

**【吉田 実副会長】**

まだ勉強するだけである。

スキルアップをした上で、構想を練る力がついてから、やっていきたいと思っている。まだ仕掛けるような段階ではない。

**【市川委員】**

春日山城は地域の宝であるが、春日地区だけでは無理だと思う。

他の下正善寺・滝寺は金谷地区になる。そういったところを巻き込んで、進めたほうが効果はあると思う。

**【吉田 実副会長】**

それはまた、段階的に手を広げていく格好ではないかと思う。

自分も過去に、謙信公祭に携わったことがあるのだが、この地域だけの祭りではない。

いずれは甲府の武田信玄の祭りのように、もっと広い地域に呼びかけた祭りにできればよいと思う。

スポットである「謙信公祭」のようなイベント・祭りと、中川上越市長が言うように、年間を通じた観光等、いろいろと考えていかなければならないと思っている。

他の地域との繋がりも非常に大切だと思っているため、段階的に進めるべきかと思う。

**【渡部委員】**

自分も観光分科会である。

先ほどの地域協議会会長会議の話と同様に、市長が交代するとやり方等がガラッと変わるわけである。市長がどのように考えているのか。

「通年観光」と大きなことを言っているのだが、春日山城跡というものは、いろいろと古い資料がある。

例えば、「春日山城址保存整備計画書」というものを平成20年頃に作成しているが、10年後に見直すといってもあまり動きがない。

他にも、令和元年に町内会長が作った資料があり、「これからの春日山城跡」といろいろと記載されているのだが、何も進展がない。

いつも分科会で話しているのだが、まずは市がこれについてどう考えているのか、ということを知りたいと思っている。

いくら自分たちが勉強をしても、古いもののためよく分からない。

また、事務局にクレームをつけるようだが、個人的には春日山城跡の保存及び観光振興、要は観光が春日地域の住民にとって、本当によいかどうかは考えものなのである。

だから、自分も基本的にそう思っていたのだが、観光で人がたくさん来ることを、希望はしているが、本当によいのかどうか、先生方のいろいろな意見もあると思うし、これは軽々に我々が取り組むようなものではなく、大きな問題だと思っている。

したがって、先ほど吉田副会長も発言したように、やはり勉強しなければ「そんなこと言うのは早い」と言われてしまう可能性がものすごくある。

1つ1つに関して、ものすごく意義がある。勉強してやっていくしかないと思っている。

#### 【吉田 実副会長】

観光振興について、例えば、NHKの大河ドラマ等の影響により、観光客がたくさん来ても、地元は交通渋滞が起きて迷惑との話がよくある。

そのため、石田委員は駐車場や道路の整備といった「インフラ整備」が大切だと言っていた。周辺のインフラの整備等も含めて勉強していかなければならないため、非常に大変だと思っている。

#### 【田中副会長】

春日区地域協議会だよりも各家庭に届いたと思う。

観光分科会は「市民を巻き込んだ環境整美」とある。「環境整美」は分科会の中で思いのある言葉だと思うため、その言葉の成り立ちを確認したい。

次に、先ほど渡部委員の発言にもあったのだが、観光の何に特化するのか。

大学を建てる時に縄文土器が出土した。正善寺のほうでは弥生土器。そういったものを扱う埋蔵文化財センター等もあるため、歴史的・考古学的な分野からも、観光のための攻めの取組ができると考えている。

**【吉田 実副会長】**

資料2は提出した分科会の審議結果をもとに、事務局が作成した資料である。

**【藤井係長】**

この文字は、最初に委員より提出していただいた文書にあった文字である。

「備えて整える」の「整備」ではなく、「美しく整える」ということである。

春日山には現在、それぞれの関係者が関わっている。町内会やその他の団体が春日山を思っ、春日山に力を尽くしている面がある。そのことを春日区だけでなく、広げていくことができればよいというところから、「市民を巻き込んだ『環境整美』」という文字を上げられたものと思っ、この文字を使用している。

**【吉田 実副会長】**

一応、今後の具体的な行動の予定として、春、雪が解けた後で、できることであれば委員で春日山を登りたいと思っている。

さらに、行政より春日観光というか、春日山城でもよいのだが、勉強会・学習会を行いたいと思っている。

**【本多委員】**

春日山は、かなり前からの継続的な事業だと思う。そのため、一朝一夕にはできないと思っ。特に、市川委員の意見にもあったが、この春日地区だけの話では、無理だと思う。

2年ほど前に祭りを見に行ったとき、都会から来た人が、ここにすごく歴史的な春日山城があるのに、何にも宣伝してないと言っていた。

高田地区以外の人、高田城址公園の桜の城跡よりも、春日山のほうにはるかに意識を持っている。

ところが、市の考え方として、春日山は、どうやら地元のためのものという感じが強過ぎる。これまで、春日山城跡保存整備促進協議会の先輩が、いろいろ取り組んで



きたが、話が中途半端になるのは、おひざ元の市がはっきりしないという意見もある。  
なかなか大変だと思うが、頑張っけてよくしていただければ嬉しい。

**【山田委員】**

話が戻って申し訳ないが、春日山城跡保存整備促進協議会が毎年100万円近い事業費で、地域活動支援事業に提案してきている。

今年度も、木が倒れた、道標がない等の理由から、いろいろと補助が行われた。

できることであれば、雪が解けてから、その団体の案内で現場の説明を受けてはどうか。

**【渡部委員】**

実施済である。

**【太田会長】**

昨年、案内があり、希望者は散策に行ったと思う。

**【山田委員】**

記憶になく申し訳ない。

話は戻るが、地域活動支援事業で毎年100万円近い提案があるため、春日区地域協議会に対して、支援事業を活用して整備した場所を案内してほしいと思ったものである。

**【吉田 実副会長】**

資料2の下から3つ目にある「春日山城跡保存整備促進協議会から、これまでの経緯の説明を受けたい」とはその内容である。

これまでに取り組まれたことの説明を受けたいと考えており、予定に入れている。

**【山田委員】**

自分は説明を受けるだけではなく、実際に現地に行き、できることであれば皆で歩いて現地確認がしたいと思っている。

**【吉田 実副会長】**

それも含めて考えたい。

しかし、すべてを歩いて見て回ることは大変だと思う。

**【太田会長】**

採択された事業提案者側も、もう少し地域協議会に対して丁寧な説明が必要な部分もある。

また委員としても、もう少し関心を持ち、気にかけていかなければならないと思う。

「審議の背景」に「国指定の史跡であり、」とあるが、本当に、春日山を30センチ以上掘る場合には国の許可が必要になる。木が倒れるのに単管を打ちたいといっても、30センチ以上となると、国の文化庁に申請を出さなければならない。

何をやるにも、労力が必要であり大変だと聞いている。観光分科会からも頑張ってもらっていただき、関係団体と情報共有をしながら勉強し、自分たちのスキルアップもしながら進めてもらえるとよいと思う。

他に質問等あるか。

**【谷委員】**

新市長も「春日山観光」を口にしてている。

そのため今後、自主的審議の中で、行政にも関わってもらいたい旨の要望等を出してはどうか。

**【太田会長】**

その辺は分科会の審議で進めていただければよいかと思う。

他に質問等あるか。

(発言なし)

次に安全・安心分科会より説明を求める。

**【阿部委員】**

・資料2に基づき説明

**【太田会長】**

今ほどの説明に質疑を求める。

**【田中副会長】**

安全・安心分科会が大変な状況だと分かった。

積雪時の歩道・春日区に対応する防災備品等、行政が及ばないような小さなこともあると思う。

大変ではあるが、地域の安全・安心を何で担保するのかということを考えながら、進めてほしいと、応援する気持ちである。

**【太田会長】**

参考にしながら、進めていきたいと思う。

他に質問等あるか。

(発言なし)

次に福祉分科会より説明を求める。

**【吉田 義昭委員】**

・資料2に基づき説明

**【太田会長】**

今ほどの説明に質疑を求める。

**【石田委員】**

現在、3つの分科会に分かれて審議している。

自分が思っていることは、町内のことだから町内会長がメインになるのかと思いつつ、地域協議会の役目がどのような位置にあるのか、協議を進めていくにしたがって疑問に感じている。

自主的審議を行って課題を挙げてみると、町内会で処理できるような課題が結構出てきている感じがする。

町内会長連絡協議会、もしくは、町内の問題があつて、何かをしてもらう時に経費を要する場合には、出ていない地区もあるのだが、市議会議員がいる。

市議会議員の役目は何なのか、どのような関わりで地元から選出されているのかといったことを考えると、地域協議会がどういった役目を果たし、どういう権限があり、どういったかたちとなるのか、逆に聞きたい。

今ほどの吉田 義昭委員の説明は自分なりに理解でき、自分も町内会の役員をしているため、内容も理解できる。

地域で問題があつた場合には、町内会長や町内会長会議も問題を取り上げるべきである。そういう大きな問題となると、お金が絡んだり、要望・陳情となれば市議会議員も絡むのではないかと思う。もちろん市も絡むのだが、地域協議会の在り方がその中間的な位置なのではないかと思う。

もう少し納得のいくように、委員でも事務局でもよいので教えてほしい。

**【太田会長】**

自分は説明ができる自信がないため、後ほど事務局より補足願う。

**【渡部委員】**

その前に、この分科会の目的について、吉田 義昭委員はある意味、昔気質の「隣近所仲良く」といったことを目的にしているのか。

自分は春日野なのだが、申し訳ないが隣の家が何人家族なのかよく分からない。と

いうのは、あまり接触がないのである。

年代が違うことと、時々、年寄りが来ているようで、たぶん子どもは2人だと思、程度の感じである。

自分も以前、町内会長を務めていたが、あまりべたべたすることを嫌がる町内である。理想的には、昔のようにおかずを持っていく、ということも1つの方向かもしれないが、春日野町内は、そういったことを欲している住人は少ない。

むしろ自分としては、最低限度、どこに高齢者がいて、万が一の時にはどうするのかといったマップを作ることが大事かと思う。

例えば、自分は草刈りで春日山の下のほうによく行くのだが、あの辺りは小さな町内がいくつかある。そこでは「どこの子どもが、どこの学校を出て、どこに行って、今帰ってきている」等、町内全世帯のことを知っている。それがよいのかどうかなのだと思う。

本当に目的がどこにあるのかということを見失わないでほしい。

大きな町内もあれば、小さな町内もある。そして町内会長の考え方もある。住人の考え方もある。町内によってはいろいろなところから来ている人が多く、地元の人がほとんどいない町内もあると思う。アパート等はあまり干渉されることを嫌がる人も多い。

その辺もよくやっつけていかなければ難しい問題かと思う。

#### 【太田会長】

石田委員の話に戻りたいと思う。

「地域協議会の立場」についてである。

事務局より補足等あるか。

#### 【小林センター長】

「地域協議会のあり方」、「地域協議会の立ち位置」といったことについてである。

長い話となるため、自分としては改めて機会をもって説明したいと思っている。

なかなか一言ではいえないところがある。それは現在、市議会や行政の中でも、いろいろと話をしているところである。

ただ、1つのヒントとなることは、任期当初に配布し、よく話にも出てくる「地域協議会委員の手引き」の中に、言葉では「こういうものだ」ということはある。

例えば、地域協議会とは自主・自立のまちづくりを推進するために話し合い、住民

同士が地域住民としての観点から話し合う。また地域の課題や活性化について話し合う。またそういったものを市長に意見として伝えるという「意見具申権」を持っているということははっきりと言える。

また立場的には、地域協議会は「市長の諮問機関」との位置付けである。

ただ、このような話をいくらしたところで、現場の「町内会との住み分けをどうするのか」といったことの答えには、なかなかならないと思う。

それについては、改めて別で機会を設けて、立ち位置等を確認しながら、自主的審議のほうに進んでいただきたいと思います。

#### 【太田会長】

今ほど事務局より説明があったように、今後は分科会の中でも、「地域の中での立ち位置」、また「市議会議員との関係性」「市との関係性」等をもう少し理解したうえで自主的審議を進めていかなければならない部分も十分にあると思う。少しずつ時間をかけながら、地域協議会について勉強する機会も必要かと思う。

#### 【吉田 実副会長】

地域協議会の役割については、非常に難しいというか、まだ自分は試行段階だと思っている。

春日区での議論は、1期目・2期目あたりの町内会長の考えとしては、「自分たちがいるため地域協議会はいらない」という町内会長が多かった。

だがその後、町内会長たちと懇談の場を設けた時に、「町内会長たちは日々の問題に対応するだけ手一杯である」との発言があった。「いろいろな地域課題等は地域協議会で検討してほしい」と発案した町内会長もいた。それが妥当なところだと思っている。

現在の自主的審議の中には話が出ていないのだが、2期の終わりごろか3期目に藤新田・藤巻あたりで新駅の話があった。現在はその話は立ち消えとなっている。

そういった話も、どこかで真面目に検討・提案してもよいと思う。ただ、ほ場整備等いろいろあり、今は無理なようである。

そういった地域の問題を検討し、何か打開策等を考えていくのが地域協議会だと自分は思っている。

そのためには、町内会長や市議会議員と連携し、その他、諸団体との連携は当然に必要なと思うのだが、その連携がうまくいっていないように思う。

情報の吸い上げや、お互いのディスカッションといったことである。大学の教授も興味を持っているようだが、地域協議会はまだ試行段階であり、どうなるのかは自分たちにかかっているように思う。

#### 【太田会長】

先ほどの渡部委員より発言のあった内容についてである。

春日野は町内となって30数年程である。外から春日野に移り住んできた住人もあれば、自分のように生まれも育ちも春日山近辺という人もいる。

先ほどの渡部委員の発言にもあったように、各町内によって事情はいろいろと違うと思う。

自分は隣近所仲がよい環境で育ってきたのだが、そういった関係性が苦手で春日野のような新興住宅地に来たという人もいる。そのため、春日地区の19町内すべてが1つというわけにはなかなかいかないと思う。

福祉分科会は大変な部分はあると思うのだが、地域・各町内の事情も調べて把握しながら、進めてもらえればよいと思う。

#### 【谷委員】

報告である。

以前、創造行政研究所より講演を受けた際に、出していた資料がある。

その中の今後の人口の予測で、出生率が700人程に減少するとあった。

先日の上越タイムスに掲載されていたのだが、2020年の出生が1,029人であった。その翌年には900人、最近では800人台にまで減ってきたとのことである。

結婚しても、なかなか産めない・産まない、あるいは結婚も遅くなるといったことがあり、2050年には700人程度になると創造研究所では予測し、資料が出ている。

こういった現実を踏まえて、今後も出生率は上がっていかない状況の中でどのようなまちづくりをしていくのか、考えていきたいと思っている。

#### 【太田会長】

大きな問題、小さな問題も含めて、問題解決に向けていろいろと調べながら、地域の声も聞いていけばよいと思う。

予定時間も超過しているため、他に発言等なければ議題を終了したいと思う。

(発言なし)

以上で次第3 議題「(2) 自主的審議事項」の「各分科会における審議の状況について」

を終了する。

最後に次第4「その他」の「(1) 次回開催日の確認」に入る。事務局より説明を求め  
る。

**【藤井係長】**

- ・次回の協議会について説明

**【太田会長】**

－ 日程調整 －

- ・次回の地域協議会：2月14日（月）午後6時30分から 市民プラザ会議室（予定）
- ・内容：令和4年度 地域活動支援事業について
- ・会議の閉会を宣言

※閉会后、分科会を開催（流れ解散）

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。